

九州支部ボランティア隊・第1陣

南から大部隊で炊き出し
ラーメン、串焼きに人がいっぱい

日遊協九州支部のボランティア
隊は5月18日から20日まで3日間、

宮城県石巻市の東日本大震災被災
地で被災民家からの汚泥、家具等

の搬出、清掃作業をしたが、
それと並行して、福岡市の
人気ラーメン店と焼鳥店の
2店の応援を受け、炊き出
し活動を行った。

九州支部隊は山口雅弘支
部長以下総勢52人(会員企
業32人、日本青年会議所ア
ミューズメント部会15人、
炊き出し応援5人)の大部
隊。女性も2人参加した。

カレーも入れて
1290人分
保冷車に積んで

このうち3日間の炊き出
しに出動したのは、日替わ
りで10〜14人。それに炊き
出し応援の博多とんこつら
ーメン「けんのすけ」(福岡

市東区)、焼鳥「美久馬」(同市中
央区)からの5人となっている。

炊き出し隊は石巻市災害ボラン
ティアセンターの指示の下、同市渡
波地区など3日間に5か所を訪れ、
昼食時、夕食時の2回、最終日20
日は昼食時の1回、炊き出しを行
なった。炊き出し場所は休業中の
店舗の駐車場などを利用した。炊
き出しをした地域では、水道、電
気は部分的に復旧しているが、ガ
スが復旧していなかった。用意し
てきた3日分の材料は、とんこつ
ラーメン740人分、串焼き25
0人分、牛スジカレー1300人分。
保冷車に積んで移動した。

親子連れや
鍋持参で

「ありがとう」

どの炊き出し場所でも、一行が
テント張りの準備作業をしている

と、すぐに通りがかりの人たちが
立ち寄ってきた。「炊き出しです
か?」「福岡のとんこつラーメン
と串焼きです」「へー、楽しみ。
みんなに知らせなきゃ」。炊き出
しのニュースはクチコミや携帯電
話ですぐに広がり、「開店」前か
ら人だかりができた。炊き出し中
は、「けんのすけ」「美久馬」の「プ
ロ」5人がフル回転で調理にあた
り、九州支部のメンバーが調理の
手伝いや行列整理などにあたった
が、多いときには60〜70人ほどの
列ができた。その場で食べる親子
連れもいたが、鍋やタッパー持参
で来て、避難所や自宅に持ち帰る
人が多かった。

1か所当たりラーメン70〜20
0人分、串焼き125人分(また
はカレー150人分)が準備され
たが、各場所とも40分から1時間
半で材料を使い切り、遅れて駆け
つけて来た人たちに「もう終わっ
てしまいました。申し訳ありません
」と謝らなければならなかった。
利用した「お客様たち」は帰りが
けに、「ありがとうございます」
「ごちそうさまでした」「おいし
かったです」と口々に礼を述べ、
ボランティア側も「ありがとうご

出動前、石巻市災害ボランティアセンターで



鍋やタッパーで持ち帰る人も

長蛇の列ができた



「この喜びを 職場の人たちに 伝えよう」

有川裕之九州支部隊長は3日目、終了にあたって要旨次のような挨拶をした。「皆さん日頃経験したことがないことばかりだった

ございました」と返していた。

が、まとまって行動できました。皆さんを派遣してくれた各社にお礼をいいたいです。皆さんは、ボランティアという見返りを求めない行為について喜びを味わえたと思います。この喜びを持ち帰って、職場の方たちに伝えてください。われわれの行為は小石でしかないかも知れないが、小石がたくさん集まって復興につなげることができると思います」

- ▽日時 5月18日～20日
- ▽場所 石巻市雄勝地区など3か所、同市渡波地区など5か所
- ▽隊員 隊長・有川裕之(ジーピーエム株)、副隊長・八坂真吾(株)ビッグ・マリオン)、金海基樹、金海基浩、木下敬太、鬼木太亮、吉井一仁、金海基照、山下義和(株)ユーカー)、長野綾平、古賀洋介、山田篤(株)九州エース電研)、岩戸弘二、有川勝紀、兒玉真一(ジーピーエム株)、山口雅弘、柴藤一利、鎌浦勇樹、薄孝行(株)山口商事)、岩崎史典(株)玉屋)、金子憲治、川野正博(株)ジェット)、太田光弘、奥野宏、山室高志、江口康次、渡邊睦代(三宝商事株)、竹下良、栗屋保彰、永井智亮、北内和也(株)大

日遊協の活動日誌

- 3月11日(金) 午後2時46分、三陸沖でマグニチュード9.0の大地震。巨大津波によって未曾有の災害に。
- 3月14日(月) 日遊協本部事務局に「東北地方太平洋沖地震(東北大地震) 対策本部」(責任者・佐藤千治事務局長)を設置。30日の東京都・関東支部総会を延期、同時開催の「環境フォーラム2011in東京」を中止。東北、近畿支部の総会中止。他の5支部の総会、日遊協総会は通常通り開催するが、総会後の懇親会はずべて中止。東北支部会員との連絡強化
- 3月15日(火) ホール5団体代表者会議。義援金、節電、営業自粛、入れ替え自粛など7項目の震災対策で「5団体合意」。仙台市で予定されていた取扱主任者講習・試験を中止。対象者に特例措置。
- 3月16日(水) パチンコ・パチスロ産業21世紀会(14団体の代表者出席)。業界全体としての各種の自粛・自制及び合計20億円以上の義援金拠出などを合意。警察庁が21世紀会に節電、各種申請自粛などを要請する通知、各団体が会員へ周知。
- 3月17日(木) 日遊協理事会。大震災対策を集中審議。
- 3月22日(月) 被災地対策調査隊第1陣を派遣(白石良二ボランティア隊総隊長ほか) 救援物資輸送。ホール5団体環境実務者会議が省工ネ対

串焼き屋さんも大車輪



おじちゃん、早くつくって!



劇)、北島俊和(九州支部)、日本青年会議所アミューズメント部会(松山裕平部長) 15人、炊き出し応援Ⅱ博多とんこつラーメン「けんのすけ」、焼鳥「美久馬」Ⅱ5人

▽作業 流木などの撤去、炊き出し

瓦礫を細かく分別しながら 小さな船着き場で格闘した

小さな船着き場(雄勝町・浜漁港)で、散乱している流木などを整理する作業に取り組みました。これだけの流木、鉄、ゴミ等の山をどこに処理すれば、と啞然としましたが、他のボランティア隊と共同して全員が手を休めることなくスピーディーにこなしていき、作業の中で一体感が増し、感激しました。

何でも一つの山に集めるのではなく、分別すれば非常に助かるということ、人間しかできない細かな整理が必要であることが理解

子供達のためていねいに 保健センターの室内清掃を

中部支部ボランティア隊・第1陣

できました。午前中はてきぱきと進んだのですが、午後になって漁港現場の担当の人に作業指示を聞いてもはつきりせず、どうやら人手が多くなりすぎたようでした。こういう状況での難しさだと思います。

作業の行き帰りに見た、とても信じられない被災地の光景にあらためて災害の悲惨を知りましたが、この現場もいつか漁船が集まり活気が戻るといいなと痛感しました。そのために、私達の今回の行動はほんの砂粒にしかなじませんが、人間の力で根気よく続けて行くしかありません。(八坂真吾)

▽日時 5月9日～5月11日

▽場所 石巻市北上地区

▽隊員 隊長・深谷太詞(フシニコ

ーポレーション(株) 高橋克明、石川

明則、中村直人(株ニユーギン) 高

橋哲也、清水磯衛(株豊都) 青島孝

洋(株高尾) 西原健志(株テラウチ)

▽作業 保健センター(ひまわり)

内清掃

保健センターの隅々まで、丁寧に掃除した



策啓発用ポスターを制作、ネット配布。

3月28日(月) ホール5団体代表者会議。「5団体合意」の運用を一部改定。PCSAが合意から離脱で「4団体合意」に。

3月29日(月) 被災地対策調査隊第2陣を派遣(深谷友尋会長ほか) 救援物資輸送。

3月31日(水) 日遊協、未加盟ホール会員などに義援金の要請と銀行窓口を開設。

4月11日(月) ホール5団体代表者会議。節電の具体策を検討、電気使用カットと店休の効果報告。

4月12日(火) 石原慎太郎都知事の「パチンコは電力浪費」の発言に対して東京都遊技業協同組合が「訂正のお願い」を文書で送る。

4月13日(水) 貯玉補償基金理事会。被災地ホールへの対策検討。

4月18日(金) 石原都知事の再度の「べらぼうな電力」発言に、ホール5団体が「一連のご発言に対する」要請を都庁に申し入れ。

4月20日(日) 東京都・関東支部ボランティア隊第1陣8人が2泊3日で宮城県石巻市で活動。中古車1台を仙台市に常駐。

4月25日(月) ホール5団体代表者会議。今夏の節電対策で、7月から3か月「輪番休業を柱とし、空調や照明の節電で25%以上の削減を実施する合意書」を作成。3月28日の「4団体合意」を状況変化に対応して改定。海江田万里経済産業大臣に「セーフティーネット保証に関して業種からの除外を解除する陳情」の申し入れを行う。

出発前に予想していなかった細かな作業でした。保健センターは、子供たちの検診センターとして活用されるため、屋内の清掃は細かい土、泥を部屋の隅からきれいに取り除かねばなりません。町役場の方からの要請にそって、全員でいねいに作業を進めました。すべてかたずいて「本当に助かりました。きれいにしていただき感謝します」と礼を言われ、お茶を出されたとき、「やってよかった」と心から思いました。

こうして、日遊協という横断的組織の中でひとつの目標に向かって、一緒に働くことで友情が始ま

り、絆ができたと思います。元の職場に戻っても、今回のメンバーで連絡を取り合って、いろいろ勉強したり、遊んだりすることになりました。

現地でひとつ感じたことは、被災地のボランティアセンターが、現在全体でどのくらいの復旧が進んでいて、またどの地域にどのくらいの手が必要とされているか、優先順位はどうかなど把握できていない状況にあるということです。今回は少しでもお役に立てたと思いますが、もっともっと人手が必要なのだと実感しました。

(深谷太詞)

中部支部ボランティア隊・第2陣

感謝の涙に打たれる 装備など夏への心配も

▽日時 5月13日～5月14日

▽場所 宮城県三陸町、石巻市

▽隊員 隊長・早川幸雄、深谷倫光、伊藤聖、濱和波、石原康光、

石川竹広、広瀬誠、石川信也、柴田昌彦、岡山龍二(以上ラシミコーポレーション(株))

▽作業 体育館で避難所の設営、沿岸民家の床下の泥の除去

センターで振り分けられた作業にもよりますが、作業的には軽作業といった範囲でした。問題点としては、作業中のゴーグル、マスクの着用が非常に不快感が強いことで、実際、途中から装備無しで作業をする隊員が出てきて注意をした場面もありました。

これから暑くなるにつれ、こ

民家の床下に積もった泥を排除するのに汗びっしょり



した事案が増えると、病原菌に感染するような可能性も高まる事、危機感を感じました。名取市の避難所訪問では、皆さん涙を浮かべて喜んで頂けました。物資やお金を持っていった訳ではないのですが、これだけ感謝されたのは、やはり心の部分での支えも強く求めておられるように感じました。

(早川幸雄)

5月8日(日) 中部支部ボランティア隊第1陣8人が2泊3日で石巻市へ。

5月10日(火) 日遊協、会員へ「被災者の就職受け入れのお願い」の文書。ホール5団体環境実務者会議。節電ボスターの検討。節電履行の確認方策の検討。

5月11日(水) 北海道支部ボランティア隊第1陣4人が2泊3日で石巻市へ。貯玉補償基金理事会。被災ホールへの保証適用具体化へ。

5月12日(木) 中部支部ボランティア隊第2陣11人が1泊3日で石巻市へ。

5月13日(金) ホール5団体事務局連絡会議。節電ボスター選択。5団体で就職支援の検討。

5月16日(月) メーカー団体と協議。被災地ホールの支払い緩和。

5月17日(火) 九州支部ボランティア隊第1陣52人(会員32人と日本青年会議所アミューズメント部会等)が4泊5日で、ボランティア班と炊き出し班に分かれて活動。

5月18日(水) 北海道支部ボランティア隊第2陣4人が2泊3日で石巻市へ。

5月19日(木) 理事会。夏季の節電ボランティア活動などで確認。

5月24日(火) 近畿支部ボランティア隊第1陣8人が2泊3日で石巻市へ。

5月31日(火) 中部支部ボランティア隊第3陣8人が3泊4日で石巻市へ。

6月6日(月) 中国・四国支部ボランティア隊第1陣8人が2泊3日で石巻市へ。

5月13日(日) 中部支部ボランティア隊第1陣8人が2泊3日で石巻市へ。